

## (鯖街道熊川宿 説明看板：熊川城跡)

### 熊川城跡

熊川宿は、かつて若狭街道に沿ってさまざまな食料品やその他の商品を輸送するときに使用された宿場町として主に知られています。しかし、ある短い期間では、熊川城に守られていました。その城は山頂にあり、その下の旅路と村を見下ろしていました。熊川宿には今でも、潜在的な攻撃者が前進してくるのを妨げる L 字型の曲がり角（まがりとして知られる）が道にあるなど、城の防御的な特徴がいくつか残っています。

### 熊川城と沼田氏

熊川城は、16 世紀に沼田氏によって建てられたと言われていますが、正確な築城日は不明です。1569 年、熊川城の城主が沼田光兼いぬまたみつかねであった時、熊川城は隣の城の城主であった松宮清永まつみやきよながに攻撃され占領されました。沼田氏は、近江国（現在の滋賀県）に逃亡し、そこで光兼は細川氏の武将として仕えたといわれています。彼の娘の麿香じゃこう（1544 年～1618 年）は後に、著名な将軍であり著名な作家でもあった細川藤考ふじたか ほそかわとうさい（細川幽斎としても知られる 1534 年～1610 年）と結婚しました。麿香自身は、1600 年の包囲の際に、田辺城を守った人の一人として有名になりました。

### 松宮氏による統治と廃城

熊川城は数年間、松宮氏に占領されましたが、強力な武将の織田信長（1534 年～1582 年）がこの若狭地域を征服し、1573 年に彼の部下である丹羽長秀にわながひで（1535 年～1585 年）をこの地を治めるように任命すると、城は放棄されました。今では、堀と防御的な塹壕から残された漠然とした輪郭を示す地形だけが、城がかつて立っていた場所を示しています。熊川奉行所の跡地や白石神社の裏手からの短い小道の途中にある展望スポットからは、熊川城から見えたかもしれない眺めを見ることができます。